

平成29年6月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
5月29日 (月曜日)	14番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 海の資源を活かした観光戦略について 2 プレジャーボート泊地の課題について 3 宮古警察署庁舎の今後の活用について	P 1 P 1 P 1
	20番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 増築された宮古市魚市場について	P 2
	12番 須賀原チエ子 議員 (ネクストみやこ)	1 産前・産後ケアの現状と今後の取り組みについて 2 仮設住宅の集約化について	P 3 P 3
	21番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 三陸鉄道運営の課題について 2 貧困問題について	P 4 P 4
	2番 小島 直也 議員 (公明党)	1 市街地の歩道について 2 ヘルプカードの導入について	P 5 P 5
5月30日 (火曜日)	26番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 産業立市について	P 6
	25番 藤原 光昭 議員 (新風クラブ)	1 台風10号で被害を受けた林道の災害復旧対応について	P 7
	5番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 幅広い視野で地域おこし協力隊を 2 継続的な子育て支援の政策を 3 災害対応に先進の技術導入を	P 8 P 8 P 8
	1番 今村 正 議員 (無所属)	1 新建材CLTの実用化について 2 進む海洋の強アルカリ 3 永代供養墓について	P 9 P 9 P 10
	15番 古舘 章秀 議員 (ネクストみやこ)	1 台風10号災害復旧状況及び支援状況について 2 カーフェリー航路開設に向けた取り組みについて 3 宮古運動公園の管理体制とスポーツ推進体制の強化について	P 11 P 11 P 12

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月29日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 海の資源を活かした観光戦略について	<p>① 三陸復興国立公園や三陸ジオパーク巡りや、あるいは少人数を対象とした移動手段として小型船舶、遊漁船などを活用した「海上タクシー」や「観光ガイド・クルーズ船」など、このエリアでも導入すれば体験型観光、交流人口拡大に繋がる新たな観光ツールになるのではないかと考える。小型船の特徴を活かし絶景ポイントを発見しながら様々なコース設定も可能と考える。これらの検討や、社会実験などに取り組む考えはないか伺う。</p> <p>② 「海のまち歴史文化」をテーマにした観光プログラムが少ない。これらを掘り起こして災害からの復興の中で、宮古湾海戦など歴史文化の重層性を踏まえ、観光と地域の文化振興に結びつけたいと考えるが見解を伺う。</p> <p>③ 海釣りのメッカである当地域だが、意外とファミリー層が安心して楽しめる釣り場がない。子ども連れで内陸部から来た人たちが、どこの場所に行けばいいのかわからないとの声がある。今一度、管内を見回し安心して楽しめる場所の選定、あるいは海釣り公園的な場所の検討や整備も必要ではないかと考える。考えを伺う。</p>	
2 プレジャーボート泊地の課題について	<p>震災から復旧整備された磯鶏地区の木材港に多くのプレジャーボートが係留されている。水門工事により移動してきた漁船、公的機関の船舶なども入り交じっている。それに伴い係留場所の確保が課題となっている。管理者と利用者の調整が必要ではないか。宮古市港湾振興ビジョンに基づき、海洋振興における船だまり整備の見通しを伺う。</p>	
3 宮古警察署庁舎の今後の活用について	<p>磯鶏地区にある宮古警察署庁舎が東日本大震災により被災し、現在は新庁舎が松山地区に整備中である。昨年の台風10号被害で整備計画が遅れたものの、本体は11月に完成と聞く。この新庁舎の完成後は、旧庁舎及び敷地の利活用が課題となる。譲渡されれば様々な利活用が考えられるが昨年、県に対する市町村要望に譲渡が盛り込まれなかった。市としてこの既存施設をどのように捉えているか、考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月29日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 増築された宮古市魚市場について	<p>4月23日に宮古市魚市場増築棟の落成式が行われた。市の発展期の幕開けに寄与する事業として関係者は言うに及ばず、多くの市民が水揚げ増に期待を寄せている。しかるに、落成式を迎えた時点でこの魚市場には「手洗い場」がないことが市担当課への問い合わせでも確認され、関係者からは懸念と批判が寄せられている。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>① 魚市場の衛生品質管理の上で「手洗い場」は不可欠の施設なのに、なぜ未整備のまま落成式を行い、今日を迎えたのか。その原因と責任をどう受け止めているか伺う。</p> <p>② 実施設計者である(株)日総建は、市に設計図書を納品した前後から事実上の倒産状態にあり、設計業務受託後の2015年6月に民事再生法の適用を申請したと聞く。こうした重大問題について議会には報告されないが、市長の認識を伺う。</p> <p>③ 大日本水産会から「優良衛生品質管理市場」として認定を受ける上で「手洗い場」の設置は急務だが、いつまでに整備する計画か、その財源は何か伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月29日(月)

質問順位 3番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 産前・産後ケアの現状と今後の取り組みについて	<p>花巻市では、平成29年度より妊産婦が抱える妊娠・出産等に関する悩みについての相談支援、また退院直後の母子に対して心身のケア等を行い、産後も安心して子育てが出来る支援体制を確保するため「産前産後ケア事業」を実施している。同市では、この事業を県内で妊産婦の支援を行っている任意団体「まんまるママいわて」に委託し、同市大谷地にある「産前産後ケアハウスまんまるぽっと」でサービスを提供している。ひとつの命を生み出す、妊娠・出産は母体に大きな負担がかかる。特に産後の過ごし方はその後の母親の体に様々な影響を及ぼす。</p> <p>核家族化が進む中、子育てが孤立化し、子育て環境がより厳しくなっている事から、花巻市の産前・産後ケアを参考にしながら、本市でも同様の制度の導入を検討すべきと考え次の点について伺う。</p> <p>① 当市の産前・産後ケアの状況はどうか。 ② 制度の導入についてどのような問題があるのか。 ③ 今後、導入に向けて検討する予定はあるのか。</p>	
2 仮設住宅の集約化について	<p>4月30日現在、仮設住宅には296世帯、564名の方々が居住している。グリーンピア三陸みやこ仮設住宅では3月末現在、全407戸に対し入居51戸と減少している。</p> <p>市では仮設住宅に居住している方々に、今後の動向について聞き取り調査を行ったとのことである。その結果と今後の方針について伺う。</p> <p>① 調査結果をどのように受け止めているのか。 ② 主にどのような問題が出され、どう対応していくのか。 ③ 個々の理由により、災害公営住宅等への移行が自力では困難な方への対応策はどうか。 ④ 今後、仮設住宅の集約は、いつ頃を目途にどのように進めていくのか。 ⑤ 仮設住宅の全面撤去はいつ頃になるのか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月29日(月)

質問順位 4番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 三陸鉄道運営の課題について	<p>① 三陸鉄道の平成28年度決算は、JR山田線(盛岡・宮古間)の運休や台風10号災害の影響等で北リアス線の利用客が減少し、3年ぶりに赤字となる見通しと報じられている。三陸鉄道の平成28年度収支と利用者数の状況等について伺う。</p> <p>② 観光利用客の推移が三陸鉄道運営を左右する実態にある。JR山田線(盛岡・宮古間)の運休も、三陸鉄道の利用客減少の大きな要因の一つとされているが、今秋の全線開通予定であることから、本年度も三陸鉄道運営は厳しいものとなることが予想される。ついては、宮古市及び三陸鉄道強化促進協議会における利用促進に向けた本年度の取り組みについて伺う。</p> <p>③ JR山田線(宮古・釜石間)の平成31年度三陸鉄道移管に向けた準備等の取り組み状況について伺う。</p>	
2 貧困問題について	<p>① 本年度に「子どもの貧困に関する実態調査」を行うとしているが、この実態調査の目的とその概要について伺う。</p> <p>② 生活困窮者自立支援事業について、この2年間の事業実施の中で見えてきている実態及び問題点等について伺う。</p> <p>また、生活困窮者の自立に向けて市が一層取り組むべき課題の認識を示されたい。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月29日(月)

質問順位 5番

質問者 議席番号 2番 小島直也議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 市街地の歩道について	歩道の段差や凸凹のため、お年寄りや車いすを使用する方など歩行が困難な方々にとって歩きにくく、危険な箇所が見受けられる。市はこのような状況について把握しているか。また、対応についてどのように考えるのか見解を伺う。	
2 ヘルプカードの導入について	緊急連絡先や必要な支援内容などが記載された「ヘルプカード」は、障害のある方などが災害時や日常生活の中で困ったときに、周囲に自己の障害への理解や支援を求めるためのものである。「ヘルプカード」は、特に、聴覚障害者や内部障害者、知的障害者など、一見、障害者とはわからない方が周囲に支援を求める際に有効である。災害時のスムーズな避難誘導などにも役立つことから、「ヘルプカード」の導入を急ぐべきと考えるが、市の見解を伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月30日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 26番 田中 尚 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 産業立市について	<p>産業立市は山本市長の2大重点公約の一つと理解しているが、2期8年の任期を全うしつつある時点の自己評価を伺う。</p> <p>① 産業立市で実現すべき政策に何を想定していたのか。</p> <p>② 目標・実績に照らし、100点満点で何点の評価か。</p> <p>③ 満点に至らなかったとすれば、それは何が原因だったのか。</p> <p>④ 宮古市の産業別就業者は、第三次産業、いわゆるサービス業と言われる分野に従事する人が多いが、森・川・海の豊かな地域資源が十分に活用されているとは思えない。市長はどこに原因があると考えているのか。</p> <p>⑤ 有効求人倍率の一定の高さは復興需要に起因するものが多く、建設業が牽引している状況だが、終了後の落ち込みを懸念する声が聞かれる。市長の認識はどうか。</p> <p>⑥ リーディングプロジェクト事業のうち再生可能エネルギー事業は産業創出と雇用効果が期待されたと考えるが、計画に対して、その到達度はどんな状況と考えているのか。</p> <p>⑦ 農林水産業はいずれも後継者問題が課題となっている。行政としての有効な打開策をどのように考えているのか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月30日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 25番 藤原光昭議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 台風10号で被害を受けた林道の災害復旧対応について	<p>林道の災害査定は昨年12月で完了済みだが、その復旧の目途が立っていない。そのため、現在、老人憩の家「安庭山荘」が休業している。また、シイタケ栽培生産者や林業関係者等は、収穫や加工の時期を逃すと死活問題に直結し、希望が失われる。全体的に、生産者等の声に耳を傾けていないように思われる。そこで、林道の災害復旧が進まない理由と今後の見通しについて伺う。</p> <p>また、安庭害鷹森線の災害復旧見通しについて伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月30日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 5番 白石雅一議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 幅広い視野で地域おこし協力隊を	<p>5月から、売れる農産物や地場産品開発を事業内容とする地域おこし協力隊の募集が行われている。</p> <p>当市の地域力の維持・強化をより一層図るために、地域おこし協力隊の行う事業内容について、幅広くアイデアを募集したほうがいいと思うが、見解を伺う。</p>	
2 継続的な子育て支援の政策を	<p>日本の2015年の合計特殊出生率は1.45で、最も低かった2005年の1.26を若干上回ってきているが、依然低い水準であり、当市においても人口減少対策は早急の課題である。</p> <p>そこで次の点について伺う。</p> <p>① 平成28年2月に策定された宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策体系で「働きながら子育てしやすいまちづくり」とあり、事業内容は「子育て支援企業の育成支援事業」とあるが、検討状況はどのようなになっているのか伺う。</p> <p>② 父親やパートナーが積極的に育児に参加できるよう、市として育児休暇に関する補助制度を創設してはどうか伺う。</p>	
3 災害対応に先進の技術導入を	<p>大規模な山火事や河川の氾濫など、自然災害が猛威を振るう昨今において、その災害規模が甚大になればなるほど、被害の全容把握について正確かつ迅速化が求められてきている。そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 現在、様々なドローンの活用が研究されており、災害救助や物資運搬の面でもその有用性が検証されている。総務省消防庁においてもドローンを2017年度から都道府県の消防学校に配備する計画がある。広大な面積を有する当市においても、ドローンの活用について検討すべきと思うがどうか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月30日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 1番 今村 正議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 新建材CLTの実用化について	<p>岡山県北部に位置する真庭市は、スギやヒノキの森林資源が豊富にあり、総面積の8割を山林が占めています。全国的には木材加工が寂れる中、幸いにも真庭市には製材・加工業者が多く残っています。このため、森林の伐採から木材製品まで、川上から川下までの木材構造物のサプライチェーンがあるため、一気通貫で建材を造れる強みがあります。</p> <p>衰退する日本の林業の救世主として、薄く切った木材を何枚か直角に交わるように重ねたパネル状の新建材CLT(クロス・ラミネイティド・ティンバー、直交集成板)の実用化に期待が高まっています。林業の再生に取り組んでいる林野庁はCLTの材料として日本の森林に眠っているスギ材を活用したい考えで、国土交通省は2016年度にはCLTを使った新しい建築基準を告示して地方創生の観点から政府全体で後押しするとしています。</p> <p>CLTの特徴は同じ体積のコンクリートと比較して重さは約5分の1で、断熱、耐火、耐震性に優れています。現在、国交省が実験中ですが、引っ張り強度はコンクリートに匹敵するといわれ、横方向からの力にも強さを発揮するため、地震の多い日本に適した建材とみられています。</p> <p>当市でも、このような取り組みについて検討すべきと思いますが見解を伺います。</p>	
2 進む海洋の強アルカリ	<p>サケは北の海から生まれた海を目指して帰ってきます。捕獲、採卵、孵化され放流されます。放流される河川、三陸の湾の場合、閉鎖的な湾が多く、外洋との潮の交流が少なく、湾内はアルカリ性が高くなりPH8.4を2008年から記録される湾があります。</p> <p>PHが9になれば魚は死ぬと教えられ、最近の資料ではサケはPH9耐性限度で、10で即死とあり、放流された直後のサケの稚魚はまだ弱く、PH9(石鹼水)の海に出たとき生きていけるか疑問です。</p> <p>平成21年、大船渡湾に注ぐ盛川に2千万尾のサケの稚魚が放流されました。帰ってきたのは4万503尾で、0.2025%の回帰率でした。放流したときの湾のPHは9.0でした。盛川上流に50万m³のコンクリートを使用</p>	

	<p>したダムが建設されました。放流された稚魚はPH 9のアルカリの海で2カ月間、どれほどの稚魚が無事に北の海に向かったか疑問です。</p> <p>東日本大震災の復興のため、大型コンクリートミキサー車が列をなして運転され、または、仙台あるいは八戸で防潮堤パーツが部分発注され大型トレーラーで搬入されている現状を見ると、その量は予想を超えるものと思われます。また、新区界トンネルは4.8 kmあり、使用されたコンクリート量がどう影響するかも気になります。</p> <p>ある研究者は、大量のコンクリートが海の生態系に影響していないかと、宮古、釜石の保健所を訪ね沿岸のPHの数値を入手したそうです。環境基準値PH8.3を大きく上回る数値が記録された湾もありました。サケは三陸の重要な地域産業であります。人工孵化され放流されるサケの回帰率の低下が見られます。</p> <p>1989年から2004年まではPHも低く、2005年から急に上昇し、8.4を記録しています。漁獲量の推移と反比例します。平成26年度の宮古市、山田町のコンクリート使用料は2万2,300トンと震災前の3倍といわれ、その経過が気にかかります。低アルカリ型セメントがJISに制定されているようです。その使用について研究し、海水の強アルカリ現象を緩和できないでしょうか。</p> <p>サケの稚魚が放流されても無事に生息できる環境保全のために何をすべきかお伺いします。</p>	
<p>3 永代供養墓について</p>	<p>少子高齢化の進展に伴い、墓地や墓所に対する市民の考え方も永代供養墓、合祀墓などへの要望が増えています。</p> <p>近くに勤め先がなく関東など遠方に子供が住んでいるような状況で、いわゆる「墓守」の存在しない墓が多々見受けられます。また、墓の建立を躊躇している方もいます。</p> <p>先進地の北海道恵庭市では永代供養代として一時金1万5,000円という廉価で運用されています。また、札幌市でも同様の形式です。</p> <p>宗派を超えた永代供養墓への要望も増えていることから、その建設を求めますが見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 5月30日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 15番 古館章秀議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 台風10号災害復旧状況及び支援状況について	<p>昨年の台風10号による災害は、山間地域をはじめ中心市街地に大きな爪痕を残し、被災した市民及び各事業関係者の生計・事業維持等に大きな負担を強いることとなっている。早期の復旧・復興ためには、行政の支援が何より心強い味方だと思ふことから次のことを伺う。</p> <p>① 被災家屋の再建状況及び全壊家屋の撤去の見通しについて伺う。</p> <p>② 被災農林道の復旧支援の見通しについて伺う。</p> <p>③ 被災農地の作付け状況と農業用施設の復旧支援の見通しについて伺う。</p> <p>④ 被災中小事業者の再建状況と復旧支援の見通しについて伺う。</p>	
2 カーフェリー航路開設に向けた取り組みについて	<p>先般、岩手県県土整備部港湾課より、宮古港利用促進協議会・宮古港フェリー利用促進協議会への情報提供資料として「宮古・室蘭フェリー航路開設に向けた取り組み」と題する概要が示された。</p> <p>これによると宮古港から室蘭港の航路は326km、開設は平成30年6月、使用船舶はシルバークイーン(7,005トン)、発着時間は宮古港発午前8時～室蘭港着午後6時。室蘭港発午後8時～宮古港着翌日午前6時とされている。</p> <p>また、想定される貨物、旅客、航路選定理由、主な運賃や宮古港藤原埠頭の状況と、フェリーターミナルビル・人道橋・駐車場の整備位置なども示されたことから、これを受けて次のことを伺う。</p> <p>① 平成29年度末までに整備するとされている、フェリーターミナルビル・人道橋・駐車場の進捗の把握状況を伺う。</p> <p>② フェリーターミナルの維持管理体制等について、協議・検討するとしていたが進捗状況を伺う。</p> <p>③ フェリーターミナルのオペレーション業務について、必要に応じて先進地への職員派遣を検討していくとしていたが見解を伺う。</p> <p>④ 「宮古・室蘭、新しい旅へ出港します。」とのパンフレットが作成されているが、どのような目的で作成し、活用しようとしているのか伺う。</p>	

	<p>⑤ 雑貨品や紙製品など雨を嫌う品物への対策として、藤原埠頭フェリー乗り場に併設されている3号上屋に簡易除湿機を併設。利用仕分けや乗船までの仮置き場として利用できるよう県に進言し、対応してもらいたいと考えるが見解を伺う。</p>	
<p>3 宮古運動公園の管理体制とスポーツ推進体制の強化について</p>	<p>① 東日本大震災で被災した宮古運動公園内の各施設が概ね完成し、オープンを待つばかりであるが、広大な施設をどのように維持管理していくのか管理体制について伺う。</p> <p>② 運動公園内の陸上競技場は、沿岸地域初の日本陸上競技連盟・第3種公認の競技場であると聞く。それらの施設をいかに活用して運動公園の利用率向上につなげていくのか、普及推進体制について伺う。</p> <p>③ 本市の「レスリング」・「セーリング」競技を国体「レガシー」として、少年・少女の育成に取り組む指導体制の整備を図るべきと考えるが見解を伺う。</p>	